

お釈迦様の蓮を咲かす冒険①

インド 祇園精舎編

生蓮寺住職・生命科学博士・東京大学
先端科学技術研究センター連携研究員

高畑 公紀

目的

「お釈迦様の蓮を咲かす冒険」とは、お釈迦様が生きておられた時代に咲いていた蓮を再び咲かせることを目指しています。仏教の創始者であるお釈迦様は、約二千五百年前にネパールのルンビニでお生まれになり、インド祇園精舎を含む、インドの各地を巡りながら教えを説かれた実在の人物です。

一方、仏教のシンボルの花である蓮は、種の状態で二千年以上も生命を宿していることが知られています。今なお、ネパールやインドの地面の下には、お釈迦様が実際に愛でられた蓮の種があり、しかも生命を宿しており、発芽の機会を伺っているのです。

今年の二月九日から二月十二日の帰国まで、インド祇園精舎（二週間）とネパール・ルンビニとティラウラコット遺跡（一週間）において、お釈迦様の時代に咲いていた

蓮の種を発掘する冒険旅行を行いました。この報告を『高野山時報』の紙面を通じて共有したいと考えています。全三回で、①インド・祇園精舎編、②ネパール・ルンビニとティラウラコット遺跡編、③

今後の活動について報告します。出発前日の八日には朝日新聞にも大きく取り上げていただきました。

いきなりハプニング

いきなりハプニングが待っていました。日本から一度、インド・デリーに向かい、デリーから祇園精舎を訪れました。デリーでの滞在中、痛恨過ぎる失態に合いました。なんとスマートフォンをスラれたのです。スマートフォンがないと時刻も分からないし、目覚まし時計もなくなり、その他、オンライン航空券、オンライン地図、カメラ、発掘場所のGPSデータ等、インドでの日々の生活から発掘まで影響絶大です。とりあえず

腕時計を現地調達して旅を進めることにしました。

祇園精舎の場所

祇園精舎は、お釈迦様が存命中二十五年間滞在されたと考えられています。祇園精舎はインドの首都であるデリーから車で十一時間東にあり、実際に訪れる際にはデリーから飛行機で一時間のところにあるラクノウまで行き、そこからバスやタクシーでの移動となります。ラクノウから祇園精舎まではタクシーで四時間です。祇園精舎から西に十三kmのところにStupa B湖があり、現在も赤色の蓮が生えています。村の古老の話によると少なくとも古老が小さかったころにはすでに蓮が生えており、近年人為的に植えたものではないということを確認しています。今回はこのStupa B湖でお釈迦様時代の蓮の種を探すためにボーリング調査を行いました。

チーム

お釈迦様が生きておられた時代の蓮をStupa B湖で発掘調査すべく、地質学者の岩崎好規博士、インド地質調査会社のサントッシュ博士とそ

左手前…筆者、中央…岩崎博士、右…サントッシュ博士



の部下らと共にインドチームを結成し、調査に臨みました。岩崎先生はアンコールワットやポロブドゥール遺跡の発掘・保全に尽力された著名な学者です。サントッシュ博士はインド地質調査会社の役員として豊富な経験を持っています。

発掘開始！

インドの二月は乾季にあたります。湖の水位も低下し、一部は干上がっている場所があります。干上がっている場所がかつ二千五百年前には蓮が生えていたであろう場所をボーリングしました。手動ボーリング機で直径七cm、深さ三百cmの



手動でのボーリングの様子。左から2番目が筆者

穴を掘り進め、地元の人々と協力しながら合計六箇所を調査しました。一本掘るたびに蓮の種が見つかるのではないかと期待と不安が入り混じります。しかし、なかなか成果は得られません。TV番組のように最後の最後に蓮の種が出てくるのではないかという淡い希望を胸に、最後の六本目を掘り進めます。しかし、不安が的中し、蓮の種は見つかりません。落胆と悔しさでいっぱいになりながら、ネパールへの旅路につきまします。インドでの発掘は成果を得られませんでした。ネパールへの期待は消えませんが、後半戦に懸ける想いを胸に、陸路でネパールへと向かいます。

(奈良県五條市)



発掘の様子をYouTubeで配信しています。チャンネル登録をお願いします。